

— 船旅羈旅 — 東京都・伊豆大島を歩く

東京のアイランド・伊豆大島

東海汽船株式会社の「さるびあ丸」に乗船して、伊豆大島の岡田港に到着しました。昭和のはじめから名物の椿や、あんこさんに代表される観光地として有名な大島は、川端康成の「伊豆の踊子」など多くの文学作品でも紹介されてきました。東京から一番近く大自然を満喫できる島には、岡田港と波浮港、元町港の 3 つの港があり、春夏秋冬、どの季節でも楽しめる観光地ですが、海に囲まれた島独特の海水浴や釣りが楽しめる夏の季節に歩いてみました。

火山島ならではの地形は別世界で、ハイキングやサイクリング、日帰り登山も満喫できます。都会の喧騒から離れ、大自然の中のゆっくり流れる島時間は特別でした。

大島海浜植物群落

強い潮風にさらされている大島の海岸部では、風に負けないたくましい植物が育ち、島の春夏秋冬を彩ります。海岸に切り立つ大小さまざまな崖は、海に囲まれた火山と水がせめぎあっていることをうかがわせていました。

この大島公園海岸遊歩道は、2000 年度に選定された「美しい日本の歩きたくなる道」500 選の一つで、大島海浜植物群落には、ユリ科のアマドコロやキク科のイソギクをはじめ、イヨカズラ、オオシマハイネズ、トバラ、ハマカンゾウ、ボタンボウフラ、マルバアキグミなど、多くの貴重な植物が群生し、大島特有の自然を形づくっています。

島内に 300 万本あると言われる椿ですが、いろいろな種類があり、そのひとつの縄文時代から島に自生していたヤブツバキは、大島の温暖多雨で水はけのよい土地を好み、火山ガスにも強いため、島の人々は、防風林、炭、油などに利用するためツバキを植え、大切に育ててきたそうです。

椿の花は散っていましたが、溶岩の海岸線と樹林の間をたどる変化に富んだトレッキングコースでは、東北の松島のような絶景を楽しむことができました。一句。

大島の岩に染み入る風の音

「海員だより」